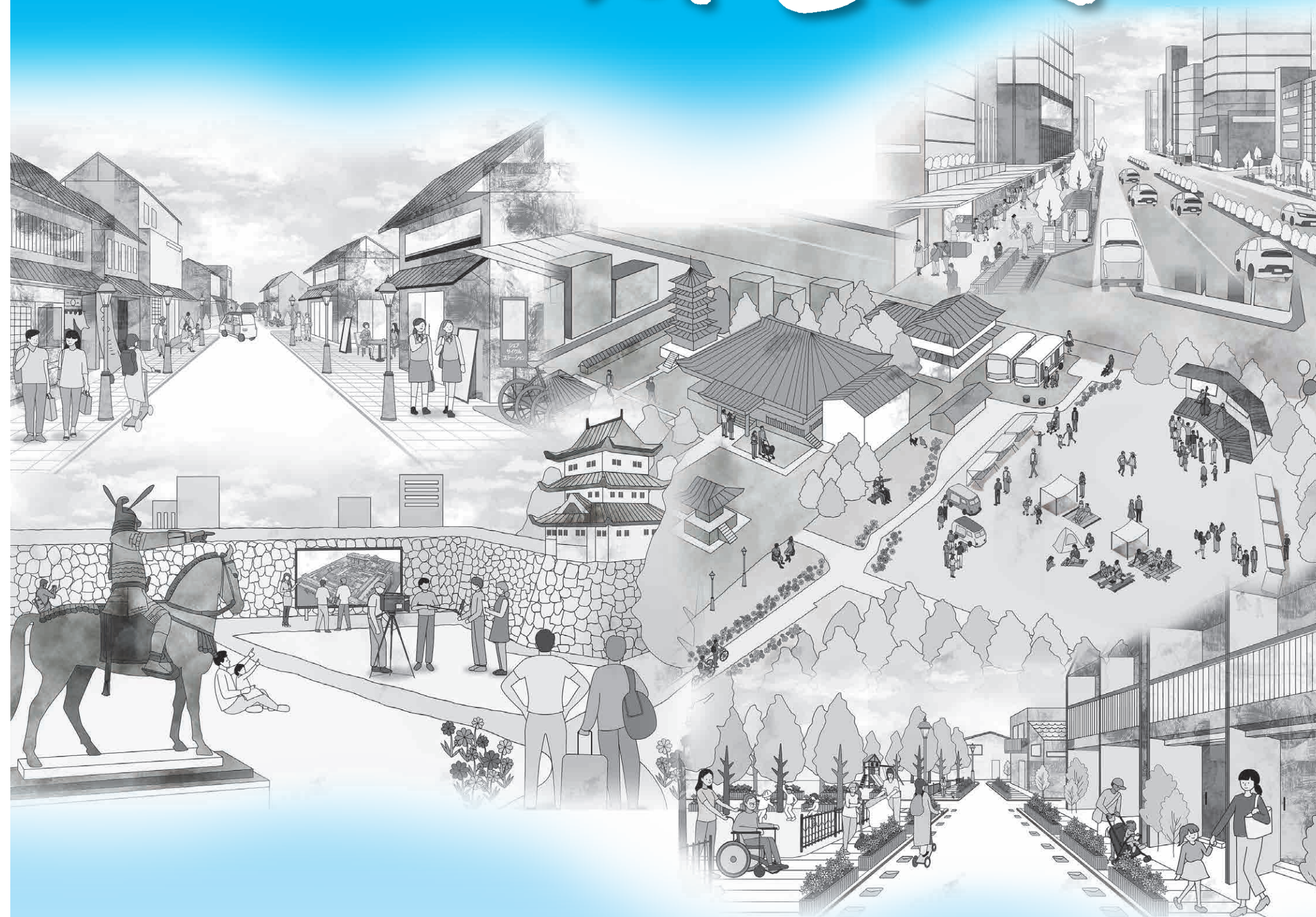




令和5年(2023年)3月

津市 大門・丸之内地区 未来ビジョン



令和5年(2023年)3月

Daimon-Marunouchi Area Vision for the Future

津市大門・丸之内地区未来ビジョンに寄せて



津市長 前 葉 泰 幸

大門・丸之内地区は、藤堂高虎公が手掛けた津城の城下町として、また、お伊勢参りで行き交う参宮街道筋の商いのまちとして発展してきました。このまちで生まれ育った私は、市長就任当初、顔見知りの商店主からの「しばらくはこのまま商売を続ける自分たちを応援しながら見守ってほしい」との思いをしっかりと受け止め、商業や飲食業の振興を図ってまいりましたが、この10年ほどの間、多くの人に長年愛されてきた老舗などが少しずつその看板をおろし、商店街の象徴でもあった大門大通りのアーケードが取り外され、まちの姿が徐々に変化し始めていました。

令和2年の初頭、新型感染症が世界中の人々の生活を大きく揺るがし始め、津市の中心市街地である大門・丸之内地区もその影響を大きく受けることとなります。特に、これまで地区の賑わいの一翼を担ってきた津センターパレスのホテルは、感染症の蔓延により人の流れが止まるなか休業に追い込まれ、その灯りが一度消えたことでまちの活力は目に見えて失われました。この頃から、営業に大きな打撃を被った商店主の皆さまからは、「高齢になり後継ぎもおらず、思い切ったまちづくりをしてほしい」との声を伺うようになり、中心市街地のまちの姿を80年ぶりに変えることで、地域の価値を高める取組に挑戦するタイミングが来たと捉え、令和3年度、津市は都市計画の観点からの調査を開始しました。

令和4年度、津センターパレスに新たなホテルがオープンし、賑わいや地域の活力創出につながる新たな展開が見え始めました。新たなまちなかの姿を創り出すため、多くの皆様のご賛同のもとスタートさせた未来ビジョンづくりの取組は、行政だけではなく、地区に関わる団体、企業、市民が手を取り合って進めていく、まさに官民連携の未来に向けたまちづくりのスタートとなる新しい取組となりました。20年後の地区の姿がどのように変わっていくのか、そのためには何をすべきか、若手メンバーや市民の皆さまからの多くのアイデアを結集して作り上げられたこの「未来ビジョン」は、今までに津市が策定してきた計画とは全く異なるアプローチで取りまとめられており、関係者の皆さまのビジョン策定までのお力添えに深く感謝申し上げます。皆さまの思いや希望が詰まったビジョンが、新たな活動母体となる「エリアプラットフォーム」において、一つひとつ実現されていくものと期待しています。

未来ビジョンづくりを進める中で、関係者の皆さまからは、歴史文化資源としての観音寺、津城跡に対する思いや、津市の中心地として誇りが感じられ、私も大門・丸之内地区の未来にかけける強い想いを受け止めました。津市は、エリアプラットフォームの一員として大門・丸之内のまちづくりをしっかりと進める覚悟を持って、新たに都市計画及び商業振興の両面から進めるための担当部署を設けます。職員が地域に入り込み、地権者の皆さまが、お持ちの土地や建物を将来的にどのようにされたいのかといったご意向を十分に把握し、都市計画を見直すことで新たな土地利用につなげます。官民の信頼関係をしっかりと構築しながら、行政にしかできない取組を進め、まちの姿を大きく変えるための突破口を開いてまいります。



目次

第1章	はじめに	1
	1. 未来ビジョンを策定する理由	1
	2. 官民連携によるまちづくり	2
	3. 未来ビジョンの対象地区・期間	4
第2章	大門・丸之内地区の状況	5
	1. 地区の位置・沿革	5
	2. 地区の概況	6
	3. 現状分析・課題整理	17
第3章	将来像とその実現に向けた目標	19
	1. 将来像とその実現に向けた目標	19
	2. 各エリアと道路軸の20年後の姿と取組例	31
第4章	将来像の実現に向けた取組	33
	将来像の実現に向けた施策・役割分担・ロードマップ	33
第5章	大門・丸之内地区に滞在する人と活動のイメージ	39
第6章	まちづくりの推進体制	41
	1. エリアプラットフォームの構成と実施体制	41
	2. 初期段階の展開	42
	3. エリアプラットフォームによる未来ビジョンの管理	42
資 料		43
	1. これまでのまちづくりの経過・振り返り	43
	2. 津市の関連計画における大門・丸之内地区の位置付け	47
	3. 未来ビジョン策定の経過	49